

リハビリテーション医学

担当指導医師

●本院

教授：西村 行秀

講師：西山 一成

助教：村上 英恵

非常勤講師：中村 健、美津島 隆、上條 義一郎、佐藤 義朝、阿部 深雪

学修方針（実習概要等）：

担当指導医のもと患者の診療に準担当医（クリニカル・クラークシップに準拠）として参加し、リハビリテーション医療を習得する。

- (1) 患者の問題点を把握し、その問題点を解決するための診察・検査・診断法とインフォームド・コンセントに沿った治療法採択を習得する。
- (2) 診察に際しては、主訴から想起すべき傷病を念頭に置いた診察手技を実行し、リハビリテーション医療が目指す機能の回復、障害の克服、活動を育むことができるような診療をおこなう。
- (3) 検査・治療に際しては、担当指導医（もしくは教育担当主任）の指導・監督下に基本的医行為に含まれる当科関連事項を可能な範囲で実践・体験する。
- (4) 実際のリハビリテーション治療の現場にも立ち会い、療法士とともにリハビリテーション治療を実践する。

教育成果（アウトカム）：

リハビリテーション医学の治療の目標とするものは障害と機能と活動である。また、急性期、回復期、生活期いずれの時期においてもリハビリテーション医療の必要性は高い。リハビリテーション医療を適切に行うためには全身を診る必要があり解剖学、運動生理学がとりわけ重要である。リハビリテーション医療を必要とする患者に対して正しく対応・処置するための基本的医療面接・診察・検査・診断・治療法とその原理・原則を理解し、総合的な対処法を修得する。リハビリテーション医療を習得することにより適切な理学療法、作業療法、言語聴覚療法が処方できるようなる。

（ディプロマポリシー：1,2,3,4,6,7）

到達目標（SBOs）：

1. これまでに習得してある正常な解剖学、生理学を説明できる。
2. 上記に基づいた正常な呼吸・循環動態、運動器、神経学的所見を説明できる。
3. 患者に接し、適切な対話（傾聴、共感を含む）を行うことによって、診断上必要な事項（主訴・現傷病の経過、合併症、既往歴、現存病、家族歴、職業歴、患者背景など）を聴取し、患者に関する医療情報を指導医に簡潔に説明できる。
4. 病歴より必要な基本的診察手技（留意すべき注意事項を参照）を抽出し、診察の実施もしくは指導医の診察の介助を行うことができる。
5. リハビリテーション医療の重要性、必要性を理解しリハビリテーション医療の概要

を説明できる。

6. 画像検査（単純X線、CT、MRI、超音波エコー、骨シンチなど）、検体検査の所見を正しく読み取ることによって、患者の状態を理解できる。
7. リハビリテーション医療を適切に行うための理学療法、作業療法、言語聴覚療法を理解し、その処方を計画することができる。
8. スチューデント・ドクターとしての役割を自覚することによって、医行為基準に示された処置、治療の実施もしくは介助を行うことができる。
9. 医療スタッフの一員であることを自覚し、患者や医療スタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。
10. 患者のプライバシーに配慮するとともに、患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。
11. 医療チームの中での自らの限界を自覚することによって、医療スタッフからの助言を素直に受け入れ、自己改善に努めることができる。

リハビリテーション室実習

1. 運動療法の概略を理解する。
2. 理学療法、作業療法、言語聴覚療法の概要を理解し療法士が提供しているリハビリテーション医療を理解する。
3. 理学療法、作業療法を理解するとともに義肢装具療法についても理解する。
4. 言語聴覚療法を理解するとともに言語療法および摂食嚥下療法についても理解する。

その他

1. 学習の記録、症例サマリー、各種評価、文献などを保存したポートフォリオから臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にすることができる。Webclassに実践内容のポートフォリオを入力すること。内容を教員が評価し、随時フィードバックする。
2. ポートフォリオに保存した患者情報について匿名化をはかるなどの適切な対応をするとともに、守秘義務を遵守することができる。

実習内容：

1. 担当指導医とともに日常の医療行為に積極的に参加してもらう。実際にリハビリテーション依頼のあった患者の診察をおこない、病歴聴取、身体診察、リハビリテーション処方などについて学ぶ。
2. 教授回診に参加する。
3. 症例検討会やカンファレンスに参加する。
4. リハビリテーション医療の理解と実際
 - (1) 医療面接
 - (2) 問診、身体診察
 - (3) リハビリテーション処方の仕方
 - (4) 実際のリハビリテーション医療の実態
 - (5) 受け持ち患者の臨床経過観察
 - (6) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の多職種との交流

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
治療用機器	超音波装置	3台	除痛、血行改善
治療用機器	低周波装置	3台	除痛、血行改善、神経麻痺改善
治療用機器	肩用輪転装置	1台	肩関節可動域改善
治療用機器	パラフィン浴装置	1台	除痛、血行改善、拘縮改善
治療用機器	SSP 装置	1台	除痛、血流改善
治療用機器	リハビリテーション（室）装置 ティルトテーブル	1台	起立運動補助
治療用機器	平行棒	2台	歩行運動補助
診断・治療用 機器	トレッドミル	2台	神経・呼吸・循環器系機能強化・評価
診断・治療用 機器	固定自転車	1台	筋力強化、呼吸・循環器系機能強化・評価
治療用機器	バイブラバス	1台	除痛、血流改善、拘縮改善
治療用機器	ホットパック	1台	除痛、血流改善、拘縮改善
治療用機器	下肢他動矯正具	1台	拘縮改善
治療用機器	連続他動関節運動（CPM）装置	数台	術後関節軟骨障害予防・関節可動域改善
聴覚用機器	液晶テレビ	一式	臨床実習
視聴覚用機器	ノートパソコン LIFEBOOK(WU- X/H1)	一式	臨床実習